



社会を支える建設業

愛知県立鶴城丘高等学校 総合学科 3年
金子 勝

私は西尾市にある鶴城丘高校の三年生です。鶴城丘高校は総合学科で、普通科の科目を学ぶだけでなく、工業、商業、農業などの様々な科目を学ぶことができます。

高校に入学するまでは、土木や建設について特に関心のなかった私ですが、一年生の時に学んだ測量や、土木施工の実習を通して、土木や建設に興味を持つようになりました。

今までは意識したこともありませんでしたが、土木や建設にもいろいろなものがあります。多くの場合は、水の治水から始まり、集落を形成するための設計や施工、そして集落間を結ぶ道路を作り、そこから文化が形成される。大げさな話ではなく、社会を支えているのが建設業だと思います。

実際に私の周りを見ても道路、トンネル、鉄道、港湾、橋、上下水道、ガス、電気など生活に欠かすことのできないものの多くは、建設によって作り出されています。

そして、それらがなければ、便利で安全な暮らしを送ることができず、今の私たちの生活は建設という『縁の下の力持ち』によって支えられていることは言うまでもありません。

私は、高校でそういった事実を一つ一つ知るなかで、改めて土木や建設業の大切さを実感するとともに、私自身も「将来は土木や建設に携わる仕事をしたい」と考えるようになりました。

土木などの仕事に携わっていくには、設計技術者や現場技術者になる必要があります。設計技術者は道路やトンネル、橋などを設計し、完成イメージを作る仕事で、現場技術者は設計技術者のイメージを形にする仕事だと思います。当然、どちらが欠けても仕事が成り立ちません。

そして、実際の仕事をするためには、その仕事をするために資格を必要とするものも多いと思います。土木工事の施工計画を作成し現場の責任者として仕事をするためには土木施工管理技士の資格が必要となります。公園の工事や緑地化工事の施工管理をするには造園施工管理技士の資格が必要となります。その他にも測量士、電気工事施工管理技士、建築施工管理技士などあります。

中には資格がなくてもできる作業もありますが、仕事として誰からも安心して任せてもらうためには、資格が重要になります。そして現場の技術者として仕事

をするうえでは、特殊車両にかかわる免許や、特別教育を修了する必要があります。

私は高校生活で、平板測量、トランシット測量、水準測量、コンクリート打設などの土木施工、生垣の刈り込み、ドラグショベルの運転などの様々な実習を経験してきました。そのおかげで、「やりがい」を実感することができました。

これまでは、土木や建設業が社会を支えていると聞いても、漠然としたイメージでしたが、実際に実習を終えた後に感じた達成感は他に大変なものでした。

だからこそ私は、鶴城丘高校を卒業後、大学の工学部に進学したいと考えています。高校3年間で農業や工業など様々な分野を比較する中で選んだ土木、建設業について、より深く学びたいと思っています。そして、土木、建設の何を専門にしていこうか、自分自身の将来を模索したいと考えています。

大学での勉強は、設備なども充実しており、より専門性が高い内容になると思います。私にとっては難しく挫折しそうになることもあるかもしれませんが、高校の実習で一つのことを成し遂げた時の達成感を胸に、こつこつと努力をしていきたいと思っています。

私の周りには、就職試験を控えた友人がたくさんいます。その多くは自動車関連の技術職や、販売、サービス、福祉といった職種を希望する人が多いです。その一方で土木や建設業を目指すという友人はほとんどいません。

それは、土木や建設業にやりがいがないのではなく、仕事が少ないのではという不安が大きいのだと思います。

しかし、土木や建設業には社会を支えるという大切な使命があります。1990年代からはトンネルや橋、水道管などの老朽化による事故などが相次いでいます。そして東日本大震災により失われたインフラの整備など国を挙げて取り組むべき課題もたくさんあります。

私たちが安心して暮らしていくために、こうした問題を一つずつ解決していかなければなりません。そこには土木や建設業の力が必ず必要になります。

私はまだ土木や建設業に携わることはできませんが、大学で多くのことを学び、卒業後は即戦力となる資格を身に付け、技術力と指導力を持った技術者になりたいと思います。そして、建設業界の一員として社会を支えていきたいと思っています。